

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（21 社）

【自動車メーカー】（10 社）

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】（7 社）

トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】（4 社）

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	1	10
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	20
計		8	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG 関連を中心に項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 66.1 点（昨年度 64.4 点）、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（昨年度 7.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー（4 社）70.9 点（昨年度 67.8 点）、自動車メーカー（10 社）66.2 点（昨年度 63.4 点）、自動車部品メーカー（7 社）63.2 点（昨年度 63.9 点）となった。タイヤメーカーおよび自動車メーカーが総合評価平均点を伸ばした。個社で見ると、住友ゴム工業（＋9.9 点）、本田技研工業（＋7.8 点）の総合評価点の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 69%（昨年度 66%）、説明会等が 72%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 72%）、ESG 関連が 63%（昨年度 62%）、自主的情報開示が 62%（昨年度 60%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、80%以上となったものは、次のフェア・ディスクロージャーの項目であった。

- ・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 72%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 16 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目は次のとおりとなった。本年度において 3 項目共に項目内容を大幅に見直しているため、昨年度比は示していない。なお、(c)の平均得点率は、全 8 項目中で最も低い水準となった。

- (a)「ESG のうち「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率 64%）（得点率：50%台 5 社・60%台 12 社・70%台 4 社）
- (b)「ESG のうち「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率 68%）（得点率：50%台 1 社・60%台 12 社・70%台 8 社）
- (c)「ESG のうち「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか（ガバナンスの有効性や資本コストを意識した経営など）」（平均得点率 58%）（得点率：40%台 2 社・50%台 12 社・60%台 5 社・70%台 2 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ブリヂストン（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 75.4 点〔昨年度比－3.2 点〕）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（得点率（以下省略）76%）、経営陣の IR 姿勢等（78%）、フェア・ディスクロージャー（86%）が同得点第 1 位、説明会等が同得点第 7 位（75%）、自主的情報開示が第 8 位（69%）となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示を除く 3 分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが IR の場に積極的に参加するなど IR への意識が高いとの声があったほか、四半期決算説明会への経営トップの登壇は、企業の状況を把握する上で有用であるとの声も寄せられた。また、社外取締役ミーティングの開催を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第 4 位となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。
- ③ **説明会等**の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要な十分な情報が得られること」は同得点第 7 位（昨年度第 2 位）となった。これに関連して、説明資料に定量情報の開示項目が増えていること、決算説明会の説明が丁寧なことを評価する声がある一方、説明資料の分量が多すぎるとの声や、質疑応答の時間を含め説明会の開催時間が長いとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、日英両言語での説明会動画の配信を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」および「「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が共に最も高い評価となった。また、「「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」も第 2 位となった結果、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。これらに関連して、ESG 関連の取組みと開示が優れており、内容が充実しているとの声や、人的資本、資本コストへの意識も高いとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 8 位となった。評価できるイベントとして、経営トップを含む経営陣とのディスカッションミーティングや、中期事業計画説明会、工場見学会などが挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 本田技研工業（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 74.2 点〔昨年度比+7.8 点、一昨年度比+7.5 点〕、〔昨年度第 9 位、一昨年度第 9 位〕

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（81%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（86%）、ESG 関連が第 3 位（72%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（76%）、自主的情報開示が第 6 位（72%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合評価の順位において 7 ランクアップとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が同得点第 4 位となった。「経営陣の IR 姿勢」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、第 5 位（昨年度第 15 位）となった。これに関連して、ラウンドテーブルで経営陣とのディスカッションをする機会を設けるなど、改善途上ながらも、IR への積極性が高くなっているとの声や、経営トップが決算説明会で、PBR に関するメッセージを発信していることを評価する声が寄せられた。IR 部門については、少人数ながら対応が迅速であり、充実したディスカッションができるとの声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は最も高い評価となった。これに関連して、開示資料は改善しており、一過性要因など定量面、定性面を含めて理解しやすいとの声のほか、説明会の開示内容が日英ともに充実したことを評価する声、株式市場の要望や投資家の意見を積極的に聞こうとしているとの声が寄せられた。なお、増減益分析の内訳、生産台数計画などのデータ部分の開示の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 3 位となった。また、「「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 4 位に、「「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、電池への投資を含め、電動化に向けたロードマップや具体的な施策を十分に開示しているとの声や、資本コストに対する意識が高くなってきた印象との声があった。なお、脱エンジンが及ぼす業績への影響など、ESG 情報の記述と企業価値向上との関連性について十分な言及を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 6 位となった。評価できるイベントとして、ビジネスアップデート説明会、中期的な経営方針に関する説明会、インド HMSI 訪問が挙げられた。なお、開発技術などの説明会や工場見学会をより積極的に開催し、他社への優位性を一層アピールしてほしいとの声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第3位 トヨタ自動車（総合評価点 74.0 点〔昨年度比+2.3 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 1 位（78%）、説明会等が第 2 位（79%）、自主的情報開示が第 3 位（76%）、ESG 関連が第 4 位（68%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（82%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 2 位（昨年度同得点第 9 位）となった結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップの説明会等への参加が増えているなど、株式市場との対話を積極化しているとの声や、社外取締役ミーティングの開催を評価する声が寄せられた。なお、経営陣の IR 姿勢は改善していると評価しつつ、他社も積極化しているため、さらなる向上が必要との声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は最も高い評価となった。これに関連して、説明会での会社の説明が大きく改善しており、決算や今後の見通しなども理解しやすいとの声があり、また、取材において、投資家の意見を積極的に聞こうとする姿勢があるとの声もあった。なお、定量開示においてスポット的な開示についても、一定期間継続的な開示をすることが分析には有用との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての

開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、「型式指定申請」等問題が生じた際の説明会を迅速に開催しているとの声があった。なお、グループガバナンスに関して、会長とのディスカッションの場を設けてほしいとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 3 位に、「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 4 位となった。「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」は同得点第 12 位となった。これらに関連して、環境関連で、各種電動化商品の技術展開やロードマップが具体的に示されている点の評価する声があった。なお、全方位戦略におけるパワートレ別利益貢献度など ESG の業績影響への評価や企業価値向上との関連性について十分な言及を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。評価できるイベントとして、テクニカルワークショップを挙げる声が多く、また、脱炭素に向けた各種イベントを評価する声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **住友ゴム工業**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 73.6 点〔昨年度比+9.9 点、一昨年度比+12.2 点〕、第 4 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 14 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（77%）、ESG 関連が第 5 位（67%）、説明会等が同得点第 7 位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 13 位（80%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合評価の順位において 9 ランクアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 2 位となり、得点率も昨年度に比べ大きく改善した。これに関連して、決算説明会への登壇、スモールミーティングの開催など経営トップの IR へのコミットが強まったとの声があった。また、四半期決算説明会への経営トップの登壇は、企業の状況を把握する上で有用であるとの声も寄せられた。「IR 部門の機能」も同得点第 2 位となり、これらの結果、この分野において第 3 位（昨年度第 15 位）となった。
- ③ **説明会等**の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は同得点第 7 位（昨年度同得点第 10 位）となった。これに関連して、説明会資料に定量情報が追加され、より充実したとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 13 位となった。これに関連して、北米の構造改革などを含め、地域別の損益の開示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 5 位となったほか、「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」および「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が共に同得点第 5 位となった。これらに関連して、資本コストや株価を意識した経営の実践が、開示資料から読み取れるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は最も高い評価となった。アクティブトレッド技術に関するイベントを評価する声が多く寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 25点)		評価項目1 (配点 10点)		評価項目1 (配点 5点)		評価項目3 (配点 40点)		評価項目1 (配点 20点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストン	75.4	19.5	1	7.5	7	4.3	1	30.4	1	13.7	8	1
2	7267 本田技研工業	74.2	18.9	4	8.1	1	4.3	1	28.6	3	14.3	6	9
3	7203 トヨタ自動車	74.0	19.5	1	7.9	2	4.1	6	27.3	4	15.2	3	4
4	5110 住友ゴム工業	73.6	19.3	3	7.5	7	4.0	13	26.9	5	15.9	1	13
5	6902 デンソー	72.7	17.7	9	7.6	5	4.1	6	30.0	2	13.3	9	2
6	7270 SUBARU	69.4	18.2	6	7.7	3	4.2	3	26.1	6	13.2	11	5
7	5101 横浜ゴム	68.6	18.8	5	7.7	3	4.1	6	25.5	8	12.5	12	11
8	7272 ヤマハ発動機	67.8	16.8	17	6.7	17	4.2	3	24.7	12	15.4	2	8
9	7201 日産自動車	67.7	17.7	9	6.2	20	4.1	6	25.0	10	14.7	4	7
10	7282 豊田合成	67.0	17.1	15	7.1	14	4.0	13	24.6	14	14.2	7	3
11	7202 いすゞ自動車	66.8	17.6	11	7.5	7	4.2	3	25.5	8	12.0	13	16
12	7211 三菱自動車工業	66.6	18.0	7	7.5	7	4.0	13	22.5	19	14.6	5	14
13	5105 TOYO TIRE	65.8	17.3	12	7.3	13	3.8	18	24.1	15	13.3	9	12
14	3116 トヨタ紡織	65.2	17.2	14	7.4	11	4.1	6	25.0	10	11.5	15	6
15	7259 アイシン	64.6	16.4	18	7.0	15	4.1	6	25.9	7	11.2	16	15
16	7261 マツダ	64.5	17.9	8	7.6	5	4.1	6	23.0	18	11.9	14	10
17	7269 スズキ	62.9	16.9	16	7.4	11	4.0	13	23.7	17	10.9	18	18
18	7276 小糸製作所	61.1	15.3	19	6.4	18	3.5	20	24.7	12	11.2	16	19
19	7988 ニフコ	59.1	17.3	12	6.8	16	3.4	21	24.1	15	7.5	19	17
20	6201 豊田自動織機	52.4	12.8	20	6.4	18	3.9	17	22.2	20	7.1	20	20
21	7205 日野自動車	47.7	12.4	21	5.8	21	3.6	19	19.5	21	6.4	21	21
	評価対象企業評価平均点	66.06	17.27		7.20		4.00		25.21		12.38		

2024年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	15
(2)IR部門の機能	
・ IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（10点）	配点
・ 説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・ 経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①ESGのうち「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか。	15
②ESGのうち「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか。	10
③ESGのうち「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか（ガバナンスの有効性や資本コストを意識した経営など）。	15
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（20点）	配点
・ 事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕	20
【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した説明会名および理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	坂口 大陸	みずほ証券
	岩井 徹	SBI 証券
	楮本 将隆	野村証券
	鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント
	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（27 名）

新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高田 悟	ティー・アイ・タワリユ
石本 渉	野村証券	田中 健司	アセットマネジメント One
石山 孝高	みずほ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
庵原 浩樹	立花証券	成瀬 伸弥	岡三証券
岩井 徹	SBI 証券	新美 遙	明治安田生命保険
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
江口 由紀	野村アセットマネジメント	箱守 英治	大和証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
楮本 将隆	野村証券	馬場 永希也	シティグループ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
小西 慶祐	QUICK	牧 一統	SMBC 日興証券
坂口 大陸	みずほ証券	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
坂牧 史郎	大和証券	吉田 有史	シティグループ証券
鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。